

県勢プロで輝け

種市 この試合は2年生の古屋敷に投げ抜いてもらい、自分は準決勝、決勝と連投する予定だった。ところが拙攻続きで、流れをつかめないまま終了。終盤、1イニングぐらい投げたくて準備したけれど、かなわなかった。「何のために頑張ってきたのか」と悔しくてたまらなかった。

同年夏の県大会で優勝した八学光星は甲子園へ。ところが2回戦で、東邦(愛知)相手に7点リードを守れず逆転負け。球

場のほぼ全体が東邦を応援する、異様な光景が波紋を呼んだ。田城 九回裏に5点を奪われ、サヨナラ負けが決まった瞬間、何が起きたのかよく分からなかった。一番気の毒だったのはエースの櫻井。次の日は「これで遊べる」なんて冗談を飛ばして周りを和ませていたけれど、しばらくはショックを引きずっている感じがして、かわい

そっだった。つらい練習に耐え、たくましさを増した3人。これからはプロで、厳しいレギュラー争いを勝ち抜かなくてはならない。――どんな選手に？

三森 まずは体力づくりから。勝負は3年目になると思う。同じポジションの今宮選手を脅かせるようになりたい。将来は3割、30本、30盗塁の「トリプ

ルスリー」を成し遂げたい。田城 自分の立場は育成なので、まず三森、種市と同じ土俵に上がらなければ。一日も早い支配下選手登録を目指す。打撃でアピールしたい。

種市 2、3年後に先発投手陣に入り、2桁勝ちたい。最多勝や最優秀防御率など、何かタイトルを取りたい。正捕手の田村さん(光星出)も「八戸の後

トリプルスリー狙う

「登録」一日でも早く

2017年、3人の県勢高校球児が、プロ野球パ・リーグのチームに入団する。ソフトバンクから4位指名を受けた三森大貴内野手(青森山田)、育成で3位指名された田城飛翔外野手(八戸学院光星)、ロツテから6位指名された種市篤暉投手(八工大)だ。「一日も早く1軍に上がり、レギュラーをつかむぞ」。高校生活の戦いをあらためて振り返りながら、憧れの舞台での飛躍を誓った。(松田啓志)

――お互いの印象は。三森(青森山田) 種市は投手よりも強打のイメージが強い。田城は巧打が光っていて、対戦する投手にとっては厄介な存在だったと思う。田城(八戸学院光星) 三森は線が細いのに、自分より打球を飛ばす。種市はフォークが武器と聞いていたのに、対戦した

ときは1球も投げずじまい。正直、残念…。種市(八工大) 三森も田城も穴がない。それぞれのチームで最も警戒していた打者。思い出に残った試合を尋ねると、三森、田城は2015年秋、青森市営球場で行われた青森山田―八学光星の東北大会決勝を振り返った。私学2強の一番

は青森山田から10で完勝、秋の神宮大会と翌年春のセンバツ切符をつかんだ。三森、光星は自分たちにとって「壁」。大舞台に進むためには絶対勝たなければならぬ。大きかったのは、その前に行われた秋の県大会準決勝。光星に負けたけれど、思った以上に点差が離れず、「やればできる」とい

う自信と余裕が心に生まれた。だから伸び伸びプレーできた。田城 三森と同じ。光星にとても勝たなければならぬ相手。課せられた運命だと思う。あの試合は青森山田のエース堀岡が素晴らしかった。自分は1安打に抑えられぼろ負けでしたね。一方の種市は16年夏の県大会準々決勝で大濠に3―4で敗れた試合を挙げた。大会屈指の本格派右腕はマウンドに上がることなく、最後の夏を終えた。